

## 正誤表

『肺癌診療ガイドライン－悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む－2024年版』第1刷（2024年10月18日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2025年1月31日

金原出版株式会社

### 記

頁	訂正箇所	誤	正	備考
158	CQ30 : CQ および推奨 a,b	II <u>B</u> -III B 期(第9版)*	II <u>A</u> -III B 期(第9版)*	誤植
158	同 : 推奨欄外	* <u>N3</u> は除く。	* <u>II A</u> は <u>N1</u> のみ/ <u>III B</u> は <u>N3</u> を除く。	誤植
159	同 : 13 行目	II <u>B</u> -III B 期(第9版)	II <u>A</u> -III B 期(第9版)	誤植
277	併用レジメン(EGFR 遺伝子変異陽性例のみ) 細胞傷害性抗癌薬併用(アミバンタマブ)	アミバンタマブ <u>1-2 サイクル :</u> 350 mg/body day 1,2 700 mg/body day 21 <u>3 サイクル以降 :</u> 1,750 mg/body/body,	アミバンタマブ <u>1 サイクル :</u> 350 mg/body, day 1 1050 mg/body, day 2 (体重 80 kg 以上 : 1400 mg/body) 1400 mg/body, day 8,15 (体重 80 kg 以上 : 1750 mg/body) <u>2 サイクル :</u> 1400 mg/body, day 1 (体重 80 kg 以上 : 1750 mg/body) <u>3 サイクル以降 :</u> 1750 mg/body, day 1 (体重 80 kg 以上 : 2100 mg/body)	誤植

以上

正誤表

『肺癌診療ガイドライン—悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む—2024年版』第1刷（2024年10月18日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2024年12月2日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正	備考
81	樹形図 (最上段) 非小細胞肺癌: II B 期-N2a, IIIA 期, IIIB 期-N2	<p>〈誤〉</p> <p>II B 期 T1N2a IIIA 期* IIIB 期 T3-4N2 *肺尖部胸壁浸潤癌を除く</p> <p>手術可能 → ± 術前治療 (CQ24) → 手術 肺葉以上の切除 リンパ節郭清 T3, T4 臓器合併切除 周術期 (CQ4, 6, CQ8, CQ7, 9, 10)</p> <p>手術不能 → IIIB, IIIC 期の治療に準ずる</p> <p>〈正〉</p> <p>II B 期 T1N2a IIIA 期* IIIB 期 T3-4N2 *肺尖部胸壁浸潤癌を除く</p> <p>手術可能 → ± 術前治療 (CQ24) → 手術 肺葉以上の切除 リンパ節郭清 T3, T4 臓器合併切除 周術期 (CQ4, CQ6, CQ8, CQ7, 9, 10)</p> <p>手術不能 → IIIB, IIIC 期の治療に準ずる</p>	<p>II B 期 T1N2a IIIA 期* IIIB 期 T3-4N2 *肺尖部胸壁浸潤癌を除く</p> <p>手術可能 → ± 術前治療 (CQ24) → 手術 肺葉以上の切除 リンパ節郭清 T3, T4 臓器合併切除 周術期 (CQ4, CQ6, CQ8, CQ7, 9, 10)</p> <p>手術不能 → IIIB, IIIC 期の治療に準ずる</p>	誤植
233	7-9 行目	Grade 3 以上の治療関連有害事象発現率は、5.4 mg/kg 群で 38.6%，6.4 mg/kg 群で 58.0%であり、間質性肺炎の頻度はそれぞれ 5.9%，8.0%であった <sup>2)</sup> 。	Grade 3 以上の治療関連有害事象発現率は、5.4 mg/kg 群で 38.6%，6.4 mg/kg 群で 58.0%であった。また、投与中止に至った間質性肺炎の頻度はそれぞれ 5.9%，8.0%であった <sup>2)</sup> 。	誤植
305	下から 8 行目	OS 中央値は CP 療法 13.2 カ月 vs CE 療法 12.0 カ月、PFS 中央値は CP 療法 4.9 カ月 vs CE 療法 4.4 カ月で、	OS 中央値は CI 療法 13.2 カ月 vs CE 療法 12.0 カ月、PFS 中央値は CI 療法 4.9 カ月 vs CE 療法 4.4 カ月で、	誤植

以上

## 正誤表

『肺癌診療ガイドライン－悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む－2024年版』第1刷（2024年10月18日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2024年10月25日

金原出版株式会社

### 記

頁	訂正箇所	誤	正	備考
49	10行目	<u>CQ10</u> を参照	<b>CQ13</b> を参照	誤植
80	樹形図 3番目 タイトル	非小細胞肺癌： <u>IIB, IIIA期</u>	非小細胞肺癌： <b>肺尖部胸壁浸潤癌（IIB, IIIA期）</b>	誤植
205	樹形図 EGFR 遺伝子 変異陽性	<p style="text-align: center;"> <span style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">一次治療</span>  <span style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">OSIMELTINIB</span>  <span style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">ゲフィチニブ+カルボプラチン+ペムトレキセド</span>  <span style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">エルロチニブ+血管新生阻害薬</span>  <span style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">ダコミチニブ</span> </p>	<p style="text-align: center;"> <span style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">一次治療</span>  <span style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">OSIMELTINIB</span>  <span style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">OSIMELTINIB+プラチナ製剤+ペムトレキセド</span>  <span style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">ゲフィチニブ+カルボプラチン+ペムトレキセド</span>  <span style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;">エルロチニブ+血管新生阻害薬</span> </p>	誤植
377	13-14 行目	以上より，悪液質を呈する切除不能・進行非小細胞肺癌患者に選択的グレリン受容体刺激薬を投与することを <u>強く推奨する</u> 。	以上より，悪液質を呈する切除不能・進行非小細胞肺癌患者に選択的グレリン受容体刺激薬を投与することを <b>推奨する</b> 。	誤植

以上